〈地域コラム〉

高校生の地域活動における高校魅力化コーディネーターの役割

片平誓子

１．はじめに

隠岐島前高校の取り組みからスタートした島根県の高校魅力化事業は，今や全国に広がりを見せている。鳥取県でも，西部地区では日野高等学校，東部地区では岩美高校と智頭農林高校が自治体の協力の下「高校魅力化コーディネーター」を配置し，地域と連携した特色あるカリキュラムの導入を模索している。

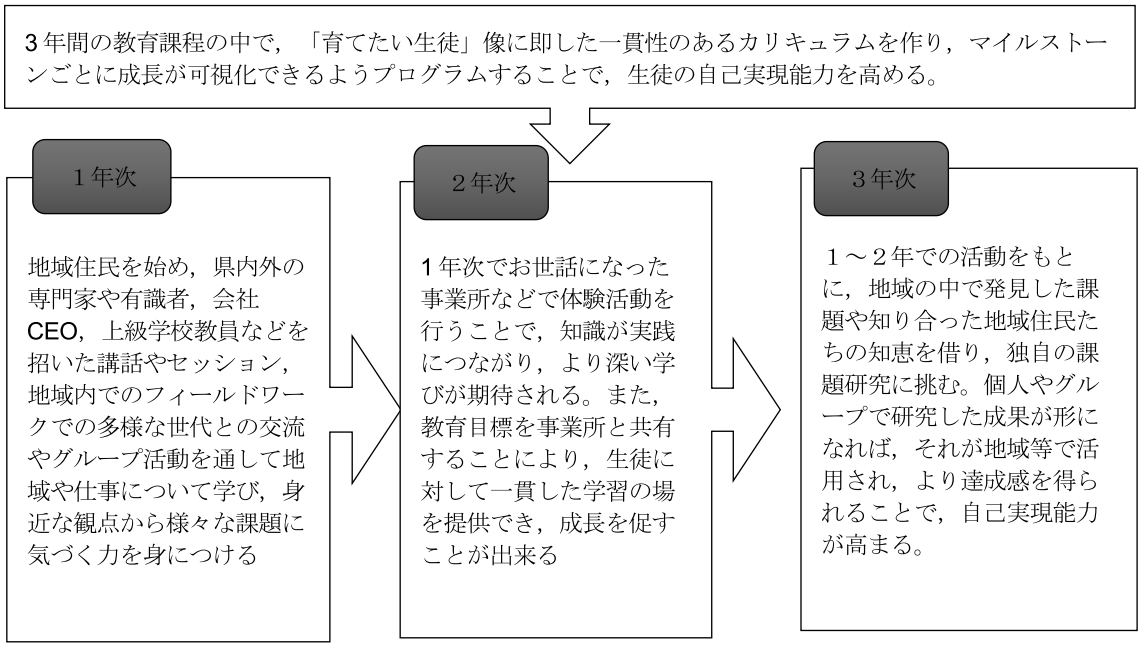
地方自治体がその所管外である県立高校の魅力化に力を入れるのは，地域から高等教育機関が消えると地元の中学生は皆地域外へと進学せざるを得なくなり，若年人口の流出が加速し，更に人口減少が進むことが懸念されるからである。また，いったん地域外に出たとしても，生まれ育った地域にＵターンして地域を担う人材となるよう動機づけるためには，小中学校だけではなく高等学校においても，地域の中で活動し，そこで役に立つという経験を通して自尊感情を形成することが不可欠となる。高校魅力化コーディネーターは，高校ではなく地域の役場に籍を置くことにより，住民と密着し，地元の資源を発掘し，自由な発想でそれを高校での学びにつなげることが可能となる。学校では教科教育の下様々な知識を得た生徒たちが，コーディネーターの働きによって社会への窓口である地域とつながり，そこで得た知識を実践できる現場となる。学校と地域，すなわち知識と実践を行き来し，その中でPDCAを回すことで「主体的・対話的で深い学び」が可能となり，生徒たちにとって自分の暮らす「地域」が経験と共に忘れ難いものとなることが期待できる。

このように，魅力化コーディネーターは地域の中に高校生の活躍の場を創り出す存在であり，教員と協力して生徒の学びの質の向上を目指すとともに若者のエネルギーを地域に還元する役割を果たす。コーディネーターを配置して４年目を迎えた日野高校で，今までの取り組みとその効果を見ていきたい。

２．「総合的な学習」における取り組み

総合学科である日野高校では，１年次での「産業社会と人間」が必須科目になっているが，その他にも，２年次の「職場体験」，３年次の「課題研究」が総合的な学習として位置づけられている。しかしながら，高校教員の中に，総合的な学習を専門的に学んだ者はほとんどいない。その結果，総合的な学習の時間が，実際には教科の補習に充てられていることも少なくない。日野高校では，これらの総合的な学習を地域の中での取り組みとリンクさせ，１年次から３年次までを連続したプロジェクト学習としてプログラムしている。

＜３年間の一貫した地域連携プログラムイメージ＞



３．地域と連携した教育活動による波及効果

（１）　地元改革（JK）課の誕生

「課題研究」で，それぞれの生徒が地域の中での課題解決に取り組み，その中の一部の生徒はかなり積極的に地域と関わることとなった。コーディネーターや役場職員，地域住民などとの関係性が，関わり方を深めたと思われる。その結果，生徒が地域の祭りやイベントに積極的に参加するようになり，友人同士が誘い合って地域活動を行うボランティアサークル「地元改革（JK）課」が立ち上がった。１年生から３年生まで１８名が所属しており，地域の中で，地域住民の方々と一緒に生き生きと活動を行っている。

（２）　高校生企画のフォーラムの実現

農業の授業で，３年間続けて地域の農家にホームステイをさせて頂いた生徒が，営農者と触れ合う中で，後継者不足，高齢化の進行などの問題を自分たちの課題と位置づけ，その解決策を地域の人たちと意見交換するフォーラムを生徒自身が企画。この春，卒業前に開催する予定となっている。

このように，３年間の学校活動の中で地域と濃いつながりを持った生徒たちが，地域の中で自ら考え，主体的に活動するようになった。魅力化コーディネーターが地域と学校をつなぐ中で，一定の効果が表れたと言える。地域の中で活動した生徒が，将来地域とどのように関わって行くのか，今後も注視していく必要がある。

片平誓子（日野高等学校魅力向上コーディネーター）